

科目名	アジアにおける安全保障	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			国際学科	□ 必修	■ 選択
			学科	□ 必修	□ 選択
英文表記	National Security in Asia	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年		
		開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	まるや あきひこ	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	丸谷 明彦	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	アジア地域における安全保障全般について学ぶ。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。 1 安全保障とはどのようなものかについて説明ができる。 2 現在のアジア情勢についての基本的な知識が身につく。 3 日本の安全保障が毎日の生活にどのような関係を持っているかについても考えることができるようになる。				
授業概要	安全保障は、国と国との関係に基づく大きな課題ですが、私たちの日々の生活にも大きな関係を持っています。日本を含むアジアの情勢が大きく動いている中、現状と課題を正しく理解することは私たちの今後を考える上で大きな意味を持ってくると思います。この講義ではアジア地域の安全保障についての具体例を活用しながら、皆さんとともに考えていきます。				
授業計画					
第1回	安全保障とは (全体のガイダンス)				
第2回	アジア地域全般の現状				
第3回	中国情勢				
第4回	朝鮮半島情勢				
第5回	ロシアの動きとアジア情勢				
第6回	ウクライナ問題				
第7回	日本の対応				
第8回	前半のまとめ・課題レポート				
第9回	日本の安全保障政策				
第10回	日本の安全保障関連法制度				
第11回	日本の安全保障関連行政組織				
第12回	情報が果たす役割ー1				
第13回	情報が果たす役割ー2				
第14回	今後に向けた課題				
第15回	全体のまとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業の前にテーマについて、ネットなどで調べ、大まかなイメージをつかんでください。その際、疑問や質問も考えておいてください。(2時間程度) 2. 毎回、前回の講義内容の確認を行いますので復習をしっかりと行ってください。(2時間程度)				
履修条件 受講のルール	適宜資料を配布しますが、事前に連絡がなく欠席した学生には原則として配布しませんので、友人同士でコピーしてください。講義の際は、前回までに配布した資料を必ず持参して下さい。				
テキスト	授業の中で、ご紹介していきます。				
参考文献・資料	兼原信克『日本人のための安全保障入門』(日本経済新聞出版)				
成績評価の方法	【試験(中間40%、期末40%)、受講態度20%】				

	<p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。
オフィスアワー	学内にいる間、柔軟に対応いたします。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	私は公務員として公共の安全に関する業務に携わってきました。この授業では安全保障全般について、具体例を交えてお話したいと思います。
学生へのメッセージ	日本を取り巻く情勢が大きく変化する中、国際政治や日本の安全について、関心のある方々の積極的な参加を期待しています。具体的な事例を検討しながら、アジアにおける日本の方向性を考えていきましょう。